



高校野球のマナーとルールを学ぼう (第7回)



財団法人兵庫県高等学校野球連盟

グラウンドでの試合を振り返り、高校野球の大切なマナーとルールを学びましょう。
あなたの「なぜ? どうして?」にわかりやすくお答えしていきます。

マナー編 攻守交替時にも緊張感と集中力を欠かさない!

守備に移るときに自分の位置まで走らなかったり、もたもたしているチームも見受けますが…

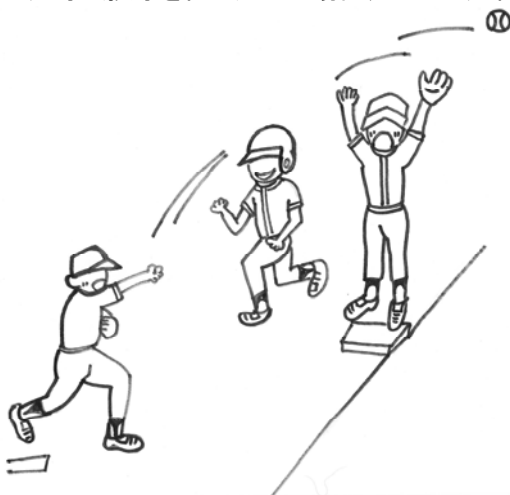
攻撃から守備、守備から攻撃に移るとき、それぞれの全力疾走はもちろんですが、給水・道具の準備や撤収などに手間取らないベンチ全員の配慮が大切です。特に捕手の防具装着には気を配ってください。ベンチ前ではなく、ネクストバッターズサークルとダートサークルの間ぐらいが目標地点です。装着後はすぐに投手の準備投球を受けることができると、相手にその様子を知らせることもなります。どんな時も「相手を待たせない」というマナーが快い緊張を生み出すのではないのでしょうか。まして、じらしたりする時間稼ぎは論外です…!

ルール編 ボーク適用時の悪送球でプレイが続けられたらどうなるの?

1死走者一塁、投手はリードする走者をアウトにしようと投手板に軸足を触れたまま送球しましたが、自由な足を直接一塁に踏み出さなかったためボークを宣告されました。しかし悪送球となったので、一塁走者は二塁から三塁へ向かったものの、バックアップした右翼手からの送球で三塁寸前タッグアウト。そのまま試合が継続されようとしていました。ボークの宣告でボールデッドだから、一塁走者を二塁へ進めて1死走者二塁で再開させるべきではないのでしょうか…?

ボークが宣告された時はボールデッドとなり、塁上の走者には1個の塁が与えられるのが原則です。事例の場合も一塁走者はボークによって1個の塁(二塁)を既に与えられていますが、それ以降の三塁への安全進塁権はありません。

規則8・05はボークを規定する条項ですが、その中の(m)【付記一】に、「投手がボークをしてしかも塁または本塁に悪送球(投球を含む)した場合、塁上の走者はボークによって与えられる塁よりもさらに余分の塁へ**アウト**



を**賭(と)して**進塁してもよい」と規定されています。また【注二】には、「本項「付記1」の悪送球には投手の悪送球だけでなく、投手からの送球を止め損ねた野手のミスプレイも含まれる。走者が投手の悪送球または野手のミスプレイによって余塁が奪えそうな状態となり、ボークによって与えられる塁を越えて余分に進もうとしたときには、**ボークと関係なくプレイは続けられる**」と記されています。つまりボークによって与えられる塁を越えての進塁は走者の自己判断であり、アウトになる危険性は走者が負うということです。事例の場合、もし三塁でセーフになれば三塁の占有権が認められ、1死三塁で試合継続となります。